

目次



埼玉県立自然の博物館の使命について	2
1 沿革	3
2 組織及び職員構成	4
3 施設の概要	5
4 常設展示の概要	6
5 平成25年度事業計画	
1 管理運営事業	7
2 展示事業	7
3 教育普及事業	9
4 資料収集整理事業	10
5 調査研究事業	11
6 平成24年度事業報告	
1 展示事業	12
2 教育普及事業	15
教育普及事業内容	17
教育普及事業内容(環境担当)	29
7 調査研究事業	32
8 資料収集保管事業	38
9 管理運営事業	40

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとのかかわりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

「川の博物館」と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民のみなさんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します。(データバンク機能)

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料や、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

2 資料を活用し、多彩な情報を発信します。(情報発信機能)

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します。(学習支援・人材育成機能)

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

4 さまざまな人々と連携・交流を進めます。(連携・交流・啓発機能)

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

1. 沿革

昭和

- 52.3 埼玉県議会で自然系博物館の建設決定
- 52.11.16 埼玉県立自然系博物館建設基本構想策定協
議会委員 14 名委嘱
- 53.4.1 自然系博物館設立準備委員 2 名委嘱
- 54.2.6 埼玉県立自然系博物館展示構想策定委員 4
名委嘱
- 54.4.1 建設地決定、準備委員 4 名発令
- 54.9.25 建築基本及び実施設計を前川国男建築設計
事務所へ委託
- 55.4.4 埼玉県立自然史博物館(仮称)準備事務所開
設、準備委員 5 名発令
- 55.4.17 埼玉県立自然史博物館(仮称)建築工事起工
式挙行
- 55.9.19 展示企画・基本設計委託(7社)
- 55.10.1 職員 9 名発令
- 56.1.26 展示実施設計を(株)日展に委託
- 56.3.31 建築工事完成
- 56.5.1 展示製作業務を(株)日展に委託
- 56.11.10 埼玉県立自然史博物館条例、同管理規則施行
埼玉県立自然史博物館開館、館長須藤和人以
下職員 18 名発令
- 56.11.11 一般公開
- 56.12.3 博物館法第 10 条による博物館登録
- 59.4.1 館長 三友清史発令
- 60.10.9 入館者累計 50 万人達成
- 60.12.9~21 アケボノゾウ骨格化石発掘調査
- 61.4.1 館長 紺野雄三発令

平成

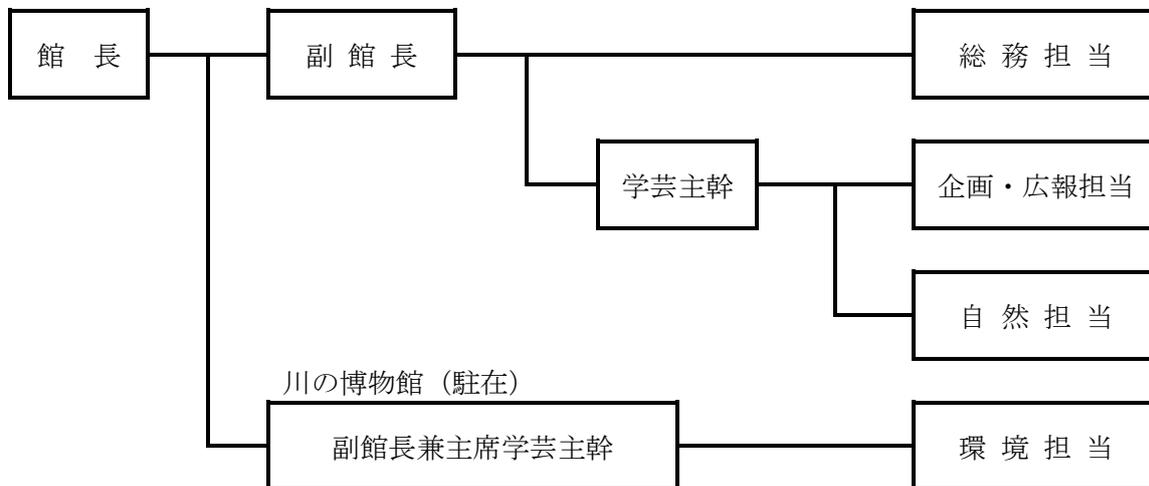
- 1.4.1 館長 島田道郎発令
- 2.4.21 入館者累計 100 万人達成
- 3.3.12 日本生命財団より展示総合案内寄贈
- 3.4.1 館長 大熊欽一発令
- 3.10.19~11.24 開館 10 周年記念特別展「よみがえる
太古の巨大ザメ」開催
- 5.5.12 天皇・皇后行幸啓
- 5.12.12 「日本地質学発祥の地」記念碑建立式典挙行
- 6.10.1 入館者累計 150 万人達成
- 6.4.1 館長 中島利治発令
- 6.11.21 新化石種「チチブサワラ」公表
- 9.7.25 秋篠宮殿下同妃殿下お成り
- 10.4.1 館長 梅沢太久夫発令
- 11.3.19 「パレオパラドキシア」埼玉県天然記念物指
定(埼玉指第 462・463 号)

- 11.5.30 生物展示ホール「シャクナゲ咲く初夏の原生
林」・「暗黒の世界鍾乳洞」にタッチライト設
置
- 11.7.17~8.31 特別展「アユの生活誌」をさいたま川
の博物館と共催
- 12.4.1 館長 増田逸朗発令
- 12.8.15 入館者累計 200 万人達成
- 12.8.23 生物展示ホール「みどりこい夏のアカマツ
林」にタッチライト設置
- 12.10.1 館長 大友務発令
- 13.5.8 生物展示ホール「冬枯れの雑木林と池や沼」
にタッチライト設置
- 14.10.5~12.8 特別展「奥秩父の自然」開催
- 14.10.8~12.8 特別展「ヤマネー森に棲むもの 西村
豊写真展」開催
- 15.4.1 館長 谷井彪発令
- 15.10.4~12.9 特別展「里山の自然」開催
- 17.3.22 「大野原産チチブクジラ骨格化石」埼玉県天
然記念物指定(埼玉指第 503 号)
- 17.4.1 館長 柿沼幹夫発令
- 17.10.8~12.4 特別展「石の用と美」開催
- 18.4.1 県立博物館施設の再編により「県立自然の博
物館」に名称変更
- 18.4.1 館長 柿沼幹夫発令(川の博物館長と兼務)
- 18.7.22~9.3 特別展「巨大昆虫の世界」開催
- 19.4.1 館長 本間岳史発令(川の博物館長と兼務)
- 19.11.23 入館者累計 250 万人達成
- 20.2.2 展示室リニューアルオープン
- 20.4.1 館長 本間岳史発令(兼免)
- 20.4.1 環境担当(川の博物館常駐)を設置
- 20.7.20 ~8.31 特別展「巨大昆虫の世界 II」開催*
- 21.4.1 館長 鈴木敏昭発令
- 21.7.18~8.81 特別展「埼玉圏の原始・古代人」開催*
- 22.4.1 館長 井上肇発令
- 22.9.18~11.14 特別展「葉の世界—そのかたちと利用
を探る—」開催*
- 23.4.1 館長 根岸玲発令
- 23.9.17~11.20 特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと
秩父のおごっつおう」開催*
- 24.4.1 館長 渋谷重雄発令
- 24.10.6 リフレッシュオープン
- 24.7.14~9.2 特別展「今だって氷河時代」開催*
- 25.4.1 館長 井上尚明発令

*企画=自然の博物館・実施=川の博物館

2. 組織及び職員構成(平成25年度)

(1) 組織



(2) 職員構成(平成25年4月1日現在)

館長 井上尚明
副館長兼主席学芸主幹 二階堂実
副館長 中村修美

○総務担当

担当部長 宮崎美光
主任 浅見靖
主任 井上剛

○企画・広報、自然担当

学芸主幹 榆井尊

○企画・広報担当

担当部長 田端紀夫
主任 町田聖幸
専門員兼学芸員 今井宏
専門員兼学芸員 大久根茂

○自然担当

担当課長 碓井徹
担当課長 曾根崎猛史
学芸員 井上素子
学芸員 奥村みほ子
学芸員 北川博道
主事 石川直子*
主事 勝又暢之*

○環境担当

担当課長 青木勝美
学芸員 小林まさ代
学芸員 五十嵐咲

※ 副館長兼主席学芸主幹、環境担当は川の博物館駐在。

(3) 人事異動

平成25年3月31日

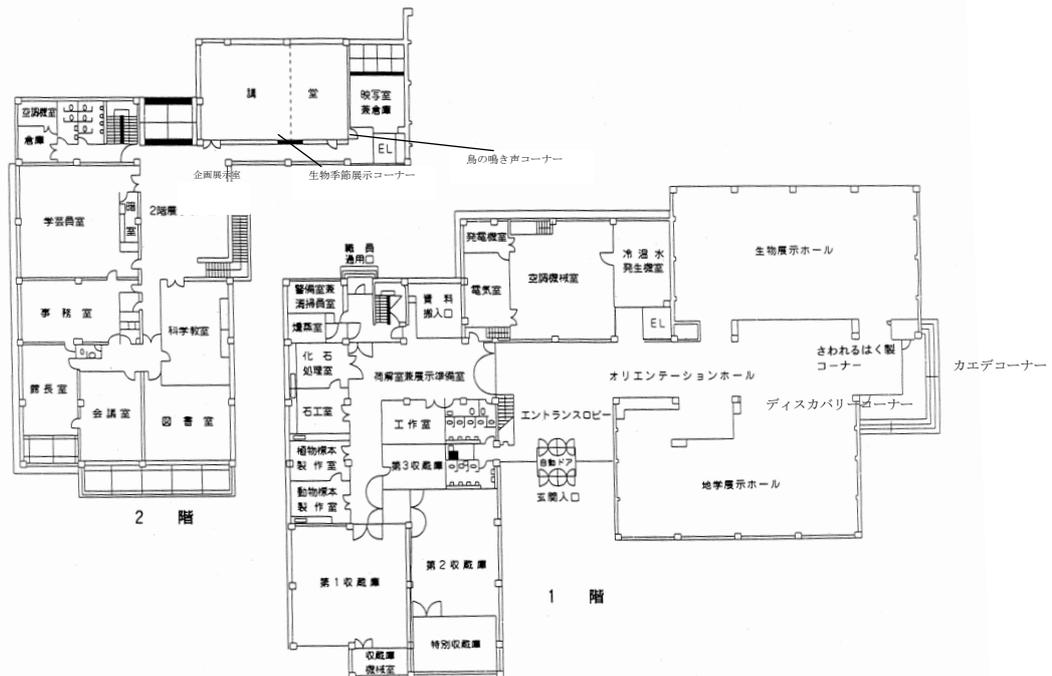
館長 洪澤重雄(転出)
自然担当課長 植田雅浩(転出)
副館長 岩本克昌(退職)
総務担当部長 大谷卓(退職)
自然担当主事 南谷幸雄(任期満了)
専門員兼学芸員 坂本治(任期満了)
専門員兼学芸員 本間岳史(任期満了)
環境担当主事 松浦誠(任期満了)

平成25年4月1日

館長 井上尚明(転入)
総務担当部長 宮崎美光(転入)
企画広報担当部長 田端紀夫(転入)
自然担当担当課長 曾根崎猛史(転入)
専門員兼学芸員 今井宏(再任用)
専門員兼学芸員 大久根茂(再任用)
主事 石川直子*(新任)
主事 勝又暢之*(新任)
*(臨任)

3. 施設の概要

- (1) 所在地 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417番地の1
- (2) 敷地面積 9,948.76㎡
- (3) 建物の構造及び床面積 鉄筋コンクリート、2階建、延 3,022.29㎡
- (4) 各部門及び各室の面積
 - ア 展示部門 1,160.0㎡(38.48%)
 エントランスロビー(78㎡)、オリエンテーションホール(254㎡)、地学展示ホール(303㎡)、
 生物展示ホール(342㎡)、さわれるはく製コーナー(5㎡)、企画展示室(150㎡)
 ディスカバリーコーナー(22㎡)、カエデコーナー(6㎡)
 - イ 教育部門 269.5㎡(89%)
 講堂(150㎡)、映写室(43㎡)、科学教室(73.5㎡)、倉庫(3㎡)
 - ウ 研究部門 202.5㎡(67%)
 学芸員室(132㎡)、図書室(70.5㎡)
 - エ 技術部門 158.4㎡(5.2%)
 化石処理室(27㎡)、石工室(27㎡)、植物標本製作室(27㎡)、動物標本製作室(27㎡)、
 工作室(23.6㎡)、くん蒸室及び同前室(16㎡)、暗室(10.8㎡)
 - オ 保管部門 529.9㎡(17.5%)
 第1収蔵庫(149㎡)、第2収蔵庫及び同前室(125.7㎡)、第3収蔵庫(28.8㎡)、
 特別収蔵庫(58.4㎡)、資料搬入口(36㎡)、荷解室兼展示準備室(90㎡)、搬入通路(42㎡)
 - カ 管理部門 498.1㎡(16.5%)
 館長室(47.3㎡)、事務室(63㎡)、会議室(54㎡)、警備員室兼清掃員室(20.8㎡)、倉庫(23.8㎡)、
 機械室(261.5㎡)、空調機械室(9.7㎡)、収蔵庫機械室(18㎡)
 - キ その他(共通) 203.89㎡(67%)
 エレベーター(11㎡)、湯沸室(3㎡)、便所(4ヶ所・66.8㎡)、階段・廊下(123.09㎡)



4. 常設展示の概要

(1) 展示ホールの概要



(2) 常設展示テーマ一覧

◇ オリエンテーションホール

- ・過去から未来へ
埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生
(総合サイン)
- ・カルカロドン・メガロドン
- ・長瀨の地質
- ・秩父・長瀨の地質学史と博物館のあゆみ
- ・パレオパラドキシア
- ・新第三紀の秩父盆地
- ・大地の不思議 (ビデオ展示)

◇ 地学展示ホール

- ・荒川上流部
- ・秩父帯の地層
秩父帯の地層
2億5000万年前の海の様子
秩父鉾山
- ・恐竜時代の地層
山中地溝帯
1億年前の海と陸のようす
ソールマーク
- ・岩石の変形
- ・埼玉の変成岩
- ・盆地と丘陵

第三紀中新世の海

砂泥互層

- ・新時代の幕あけ
第四紀はじめの化石林-メタセコイアー
- ・地層の断面
アケボノゾウがいたころのようす
アケボノゾウ骨格復元模型
- ・地形の変遷 (ビデオ展示)
- ・約13万年前の化石

◇ 生物展示ホール

- ・冬枯れの雑木林と池や沼
- ・みどりこい夏のアカマツ林
- ・いろどられるブナ林と溪流
- ・石灰岩にきざまれた自然の造形
- ・シャクナゲ咲く初夏の原生林

◇ さわれるはく製コーナー

- ・親しまれているけものや野鳥たち

(3) 企画展示テーマ

- ・多様な埼玉の自然—多様な埼玉の生きもの—

(4) 生物季節展示コーナー

(5) 鳥の鳴き声コーナー

◇ ディスカバリーコーナー ・新たな発見や感動の体験

◇ カエデコーナー ・カエデを中心とした展示

5. 平成25年度事業計画

1 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を円滑に推進するため、自然の博物館全般の管理運営に努めます。

2 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施します。

(1) 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

(ア) オリエンテーションホールに、ジオパーク秩父を解説する展示を設置します。

(イ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新します。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行います。

ウ 「体験ゾーン」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわられるはく製コーナー」の維持管理に努めます。また、ディスカバリーコーナーやカエデコーナーの更新を実施します。

(2) 特別展の実施

タイトル：「和船大図鑑－荒川をつなぐ舟・ひと・モノ－」

(企画：自然の博物館、運営：川の博物館)

期 間：平成25年7月13日（土）～9月1日（日）

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

概 要：古来より人々の重要な交通手段であった船は、海のない埼玉でも、川を舞台に盛んに往来していました。このたびの展示では、川を行き交った「和船」を人々の暮らし・信仰・船大工の技術などの観点から紹介します。川船が果たしてきた役割を理解することは、「川の国埼玉」の過去・現在・未来をつなぐ「渡し船」になるはずです。

(3) 企画展示の実施

ア タイトル：オオタカは大きくない ―ハチドリからペンギンまで―

期 間：平成25年4月1日（月）～平成25年6月9日（日）

会 場：企画展示室

概 要：未公開だった、多数の鳥類剥製をとおして、鳥の世界を紹介します。

イ タイトル：新参者昆虫図鑑 ―多様な埼玉のいきもの―
期 間：平成25年6月22日（土）～平成25年9月1日（日）
会 場：企画展示室
概 要：平野部から亜高山帯まで、埼玉県が多様な自然環境に息づく様々な動植物を紹介。また、近年になって本県に侵入してきた昆虫を取り上げます。

ウ タイトル：彩発見！埼玉の太古の海の恵み展
期 間：平成25年9月14日（土）～平成26年1月26日（月）
会 場：企画展示室
概 要：太古の海が作り出す地質資源がもたらす恵みと人と生物の営みを紹介します。

エ タイトル：どうなっているの！埼玉県の動植物―レッドデータブックのいきもの―
期 間：平成26年2月8日（土）～平成26年3月31日（月）
会 場：企画展示室
概 要：埼玉県版レッドデータブックの動物編、植物編で取り上げられている希少種の剥製・標本やレプリカを展示します。

(4) 季節展示の実施

ア タイトル：春の植物
期 間：平成25年4月1日(月)～平成25年5月12日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
概 要：カタクリなどの春植物や早春に花の咲く植物を紹介します。

イ タイトル：夜の訪問者―自動撮影カメラのモデルたち―
期 間：平成25年4月14日(火)～平成25年6月30日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
概 要：あまり知られていない野生動物たちの姿の写真展示します。

ウ タイトル：秩父を訪れた研究者たち
期 間：平成25年7月2日(火)～平成25年9月1日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー
概 要：ナウマンや宮沢賢治といった研究者や著名人と秩父の関わりを紹介します。

エ タイトル：岩畳昆虫図鑑
期 間：平成25年9月3日(火)～平成25年10月20日（日）
会 場：企画展示室季節展示コーナー

概要：岩畳で観察できる多様な昆虫たちを生態写真で紹介します。

オ タイトル：カエデの紅葉

期間：平成25年10月22日(火)～平成25年12月15日(日)

会場：企画展示室季節展示コーナー

概要：「カエデの森観察園」とあわせ、紅葉したカエデの写真を紹介します。

カ タイトル：長瀬冬景色

期間：平成25年12月17日(火)～平成26年2月16日(日)

会場：企画展示室季節展示コーナー

概要：冬だからこそ見ることができる岩畳の光景や、動植物の冬越しの様子などを観察します。

キ タイトル：地質名所の四季

期間：平成26年2月18日(火)～平成26年3月31日(月)

会場：企画展示室季節展示コーナー

概要：岩畳やようばけなどの地質名所の四季の移り変わりを紹介します。

(5) 共催展示の実施

ア タイトル：今と昔の生き物たち(仮称)

期間：平成25年7月20日(土)～9月1日(日)

会場：熊谷市立熊谷図書館郷土資料室

概要：化石や、動物の剥製、昆虫標本を多数展示、紹介します。

イ タイトル：埼玉の里と山のいきもの(仮称)

期間：平成25年10月27日(日)～平成26年1月19日(日)

会場：羽生市立図書館・郷土資料館展示室

概要：平野部から亜高山帯まで、多様な埼玉の動植物を紹介します。

3 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供します。

平成25年度は、次の事業を実施します。

- | | |
|---------------|----------|
| (1) 講座 | 8回(6日) |
| (2) 観察会 | 11回(11日) |
| (3) ミュージアムトーク | 41回(41日) |
| (4) その他事業 | 6回(22日) |

- (5) 児童・生徒・学生等の学習支援
理科や総合的な学習の時間、環境教育、キャリア教育等の支援
20回(20日)
新学習指導要領に準拠した体験学習プログラムの実践と開発を進めます。
- (6) 指導者対象講座の開催
ア 授業に役立つ自然史体験講座 1回(1日)
- (7) 各種研修会・教育研究団体の受け入れ
県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や行事等を積極的に受け入れます。
ア 中学校初任者教科別研修(理科) 1回(1日)
イ 中学校5年経験者教員研修(理科) 1回(1日)
ウ 小・中学校初任者研修(みどりと川の埼玉の歴史を学ぶ体験研修) 7回(7日)
エ 高等学校・特別支援学校等5年経験者社会貢献体験研修 1回(2日)
オ 20年経験者社会体験・ボランティア研修 1回(3日)
- (8) 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ
ア 博物館学芸員実習
実習期間 平成24年8月1日(木)～8月8日(木) (月曜休の7日間)
イ 中学生職場体験実習(長瀨中、皆野中)
- (9) 自然の博物館友の会の活動への支援
ア 定期総会、野外観察会(5回)、交流会(1回)の開催
イ 会報「みんなの自然史」第77～78号
- (10) 各種印刷物の刊行・配布
ア 埼玉県立自然の博物館報 第8号
イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第8号
ウ 催し物案内
エ 自然の博物館ニュースレター「瀨」 第22号～第24号
オ 特別展「和船大図鑑」図録・リーフレット・企画展リーフレット
カ 観察会等のテキストや研究発表会の資料
キ 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料
ク 自然の博物館利用の手引き
ケ 展示解説リーフレット
- (11) 外部研究者の受入と活用
外部の研究者に施設や収蔵資料を活用してもらい、また、共同研究を行って館の基礎的力量を高めます。
- (12) ボランティアの受入
生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めます。

- ア 展示解説ボランティア
ボランティアによる展示解説を実施します。
- イ 普及事業ボランティア
観察会・講座等の事業の補助をします。
- ウ 資料整理ボランティア
専門知識のあるボランティアにより、標本化作業の補助を行います。
- エ 調査・資料収集補助ボランティア
学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を補助します。

4 資料収集整理事業

自然に関する資料を収集・整理・保管し、県民に供するため、次の事業を実施します。

- (1) 化石資料の整理と登録
- (2) 岩石・鉱物系資料の整理と登録
- (3) 維管束植物の標本作成と登録
- (4) コケ植物、地衣類の標本作製と登録
- (5) 昆虫標本の同定と整理、登録
- (6) 昆虫以外の無脊椎動物の資料整理と登録
- (7) 大型動物の触察剥製の委託作製
- (8) 小型脊椎動物の骨格標本の作製と登録
- (9) 図書を除く二次資料の収集と整理
- (10) 定期刊行物を中心とする図書資料の整理
- (11) 「ジオパーク秩父」に関連する文献資料の収集と整理
- (12) 川の博物館の収蔵庫内に保管されている自然史系資料の整理
- (13) インターネットを通じての収蔵資料の積極的公開

5 調査研究事業

- (1) 埼玉の自然及び自然と人々との関わりに関する研究
標記の総合研究テーマに基づき、分野ごとに研究テーマを設定し、調査研究にあたります。研究の成果は、研究報告書等で公表し、展示・教育普及事業等で活用するように努めます。
分野別研究テーマ
ア 自然分野：埼玉の自然に関する研究
イ 環境分野：埼玉の自然と人々の関わりに関する研究
- (2) 特別天然記念物カモシカ保護対策事業
カモシカ保護地域における生息環境・生息状況・食害状況に関する通常調査を行い、カモシカ保護管理の基礎資料として活用します。

6. 平成24年度事業報告

1 展示事業

展示を充実し、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施しました。

(1) 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

(ア) リフレッシュオープンにあわせてオリエンテーションホールに、ディスカバリーコーナーを新たに設置しました。また、ジオパークに関する展示を追加設置しました。

(イ) 地学・生物両展示ホールの褪色・汚損が見られるパネルや、最新の学術情報の解説が必要な展示を制作更新しました。

イ 展示資料および展示器材等の補充・管理

常設展示で使用している資料の補充や、展示台等の器材の補修・交換を行いました。

ウ 「さわれるはく製コーナー」の維持管理

野生動物を身近に感じてもらうために、傷んだはく製を随時入れ替えるなど、「さわれるはく製コーナー」の維持管理に努めました。

(2) 特別展の実施

ア タイトル：「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」

(企画：自然の博物館、運営：川の博物館)

期 間：平成24年7月14日（土）～9月2日（日）

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室

見学者：28,460名

担 当：杉内（川の博物館）、小林（自然の博物館）

概 要：地形の成り立ちや、生物相の成り立ちにも大きな影響を与えた第四紀の気候変動について紹介しました。

(3) 企画展示の実施

ア タイトル：ジオパーク秩父へのいざない

期 間：平成24年10月6日（土）～平成25年1月14日（月）

会 場：企画展示室

見学者：26,845名

担 当：本間（坂本・植田）※（ ）内は、副担当以下同じ。

概 要：ジオパーク秩父の魅力と特徴を紹介しました。

イ タイトル：オオタカは大きくない 一鳥たちの世界

期 間：平成25年1月19日（土）～平成25年3月31日（日）

- 会場：企画展示室
 見学者：8, 283名
 担当：奥村（碓井）
 概要：未公開だった、多数の鳥類剥製をとおして、鳥の世界を紹介しました。
- ウ タイトル：「カエデの森」ができるまで
 期間：平成24年10月6日（土）～平成25年1月14日（月）
 会場：季節展示コーナー
 見学者：26, 845名
 担当：植田（南谷）
 概要：屋外に整備したカエデの森の特色と整備過程を紹介しました。
- エ タイトル：石の万華鏡 —ミクロの美術館—
 期間：平成25年1月15日（火）～平成25年3月10日（日）
 会場：季節展示コーナー
 見学者：5, 462名
 担当：本間（坂本・北川）
 概要：偏光顕微鏡画像を紹介しました。
- オ タイトル：春の植物
 期間：平成25年3月12日（火）～平成25年3月31日（日）
 会場：季節展示コーナー
 見学者：3, 028名
 担当：植田（南谷）
 概要：カタクリなどの春植物や早春に花の咲く植物を紹介しました。
- カ タイトル：ガミリムス公開展示
 期間：平成24年12月1日（土）～平成25年2月24日（日）
 会場：講堂
 見学者：7, 098名
 担当：井上（北川）
 概要：人気の高い恐竜骨格標本を展示しました。

(4) 共催展示の実施

- ア タイトル：武蔵野の雑木林と春の息吹 —雑木林の成り立ちといきもの—
 期間：平成24年4月1日（日）～平成24年5月13日（日）
 会場：三芳町立歴史民俗資料館
 見学者：2, 194名
 担当：植田（碓井）
 概要：雑木林の成り立ちと多様な生き物を紹介しました。

- イ タイトル：特定外来動物にご注意 ―アライグマとカミツキガメの正体を見る―
期 間：平成24年4月1日（日）～平成24年6月10日（日）
会 場：春日部市立郷土資料館
見学者：1, 764名
担 当：碓井（奥村）
概 要：アライグマとカミツキガメの剥製で特定外来生物を紹介しました。
- ウ タイトル：荒川が作った地形（県立館連携事業）
期 間：平成24年6月1日（金）～平成24年12月2日（日）
会 場：埼玉県立文書館
見学者：-----（ロビー展示のため計数できず）
担 当：坂本（北川）
概 要：大判空撮画像で荒川が作った地形を紹介しました。
- エ タイトル：埼玉に生きる多様な生き物たち
期 間：平成24年7月21日（土）～平成24年9月2日（日）
会 場：熊谷市立熊谷図書館郷土資料室
見学者：5, 345名
担 当：碓井（奥村）
概 要：埼玉県内で見られる様々な生き物を剥製や標本、生態写真などで紹介しました。
- オ タイトル：自然の博物館紹介展示（県立館連携事業）【自然担当】
期 間：平成24年4月1日（日）～平成24年9月30日（日）
会 場：歴史と民俗の博物館、近代美術館、さきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館
見学者：ロビー展示のため人数把握なし。
担 当：自然担当
概 要：各館のロビー等で、自然の博物館を紹介しました。
- カ 東日本大震災復旧・復興支援関連発掘調査写真展
期 間：平成24年11月10日(土)～12月24日（月・祝）
会 場：自然の博物館1階オリエンテーションホール
見学者：10, 683名
担 当：碓井
概 要：東日本大震災復興事業支援の一環として、埼玉県が職員を派遣している発掘調査の取り組みを紹介しました。

(5) おしゃべりマイマイ（展示解説器具）利用実績

	貸出数		貸出数
平成24年4月		平成24年10月	1,433
平成24年5月		平成24年11月	1,199
平成24年6月		平成24年12月	202
平成24年7月		平成25年1月	484
平成24年8月		平成25年2月	503
平成24年9月		平成25年3月	361
4月～9月は閉館中		合計	4,182

2 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供しました。

平成24年度は、次の事業を実施しました。

- (1) 自然工房 7回（7日）参加者 150名
- (2) 観察会 11回（11日）参加者 233名
- (3) ミュージアムトーク 13回（13日）参加者 392名
- (4) 各種団体との共催イベント 6回（6日）参加者 429名
- (5) リフレッシュオープン記念事業（新規） 44回（46日）参加者 6748名
- (6) 県立館連携事業（新規） 8回（8日）参加者 1311名
- (7) その他事業（紅葉ライトアップ、県民の日イベント、研究発表）
3回（19日）参加者 2906名
- (8) 児童・生徒・学生等の学習支援・学校との連携
理科や総合的な学習の時間、環境教育等において、出前事業や野外授業の支援を実施
しました。 38回（38日）
- (9) 指導者対象講座の開催
ア 授業に役立つ自然史体験講座 1回（1日）参加者22名
- (10) 各種研修会・教育研究団体の受け入れ
県立総合教育センター主催の教員研修会をはじめ、各種研修会や研究団体の研修や
行事等を積極的に受け入れました
ア 中学校初任者教科別研修（理科） 1回（1日）参加者56名
イ 中学校5年経験者教員研修（理科） 1回（1日）参加者29名
ウ 小・中学校初任者研修（みどりと川の埼玉の歴史を学ぶ体験研修）
6回（6日）参加者135名

エ 高等学校・特別支援学校等 5 年経験者社会貢献体験研修

1 回（2 日）参加者 1 名

オ 20 年経験者社会体験・ボランティア研修

1 回（3 日）参加者 3 名

(11) 博物館学芸員実習・職場体験等の受け入れ

ア 博物館学芸員実習

実習期間 平成 24 年 8 月 1 日（水）～8 月 7 日（火）の 7 日間

3 名受入（東京農業大学）

イ 中学生職場体験実習

2 名受入（長瀨中）

(12) 自然の博物館友の会の活動への支援

ア 定期総会、野外観察会（4 回）、交流会（1 回）の開催 参加者 110 名

イ 会報「みんなの自然史」第 75～76 号の発行

(13) 各種印刷物の刊行・配布

ア 埼玉県立自然の博物館報 第 7 号

イ 埼玉県立自然の博物館研究報告 第 7 号

ウ 催し物案内

エ 自然の博物館ニュースレター「瀧」 第 19 号～第 20 号

オ 特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」図録・リーフレット・企画展リーフレット

カ 観察会等のテキストや研究発表会の資料

キ 自然の博物館利用講座テキスト及び指導資料

ク 自然の博物館利用の手引き

ケ 展示解説リーフレット

(14) 外部研究者の受入と活用

外部の研究者に施設や収蔵資料を活用してもらい、また、共同研究を行って館の基礎的力量を高めました。

(15) ボランティアの受入

生涯学習や自己実現の場を提供し、重要なパートナーとして、博物館活動の質を高めました。

ア 展示解説・普及ボランティア（新規）

新たにボランティアによる展示解説を実施しました。登録 10 名、延べ 108 名

イ 資料整理ボランティア

専門知識のあるボランティアにより、標本化作業の補助を行いました。登録 20 名、延べ 40 名